



県内建設産業の現状



埼玉県 県土整備部 建設管理課

目 次



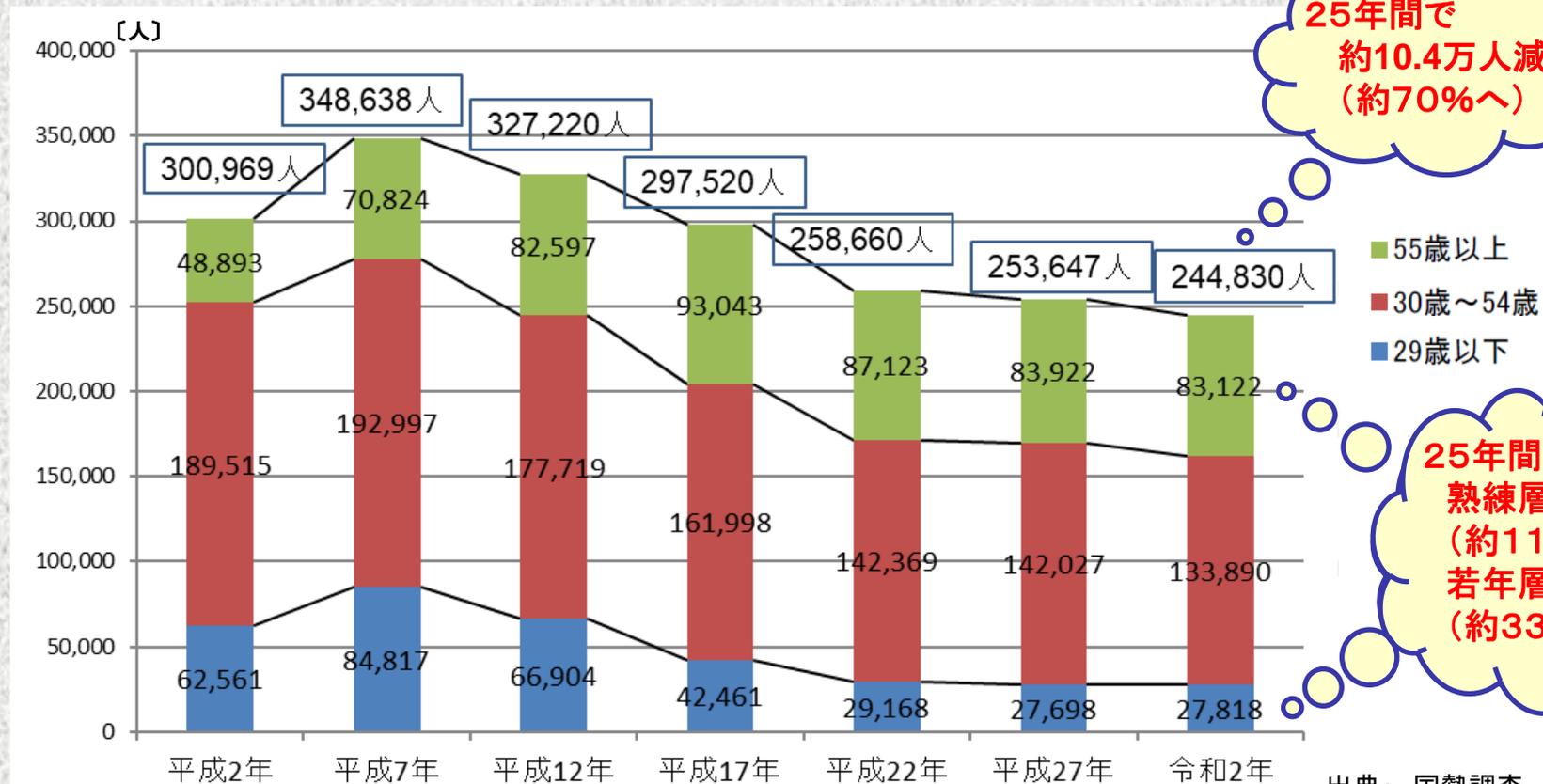
県内建設業の現状について

- (1) 担い手・・・従事者数、年齢階層別就業割合、
求人倍率、工業高校生徒数
- (2) 就業環境・・・労働時間、出勤日数、休日、
設計労務単価、労働生産性
- (3) 近年の動向・・・猛暑日、CSF、台風19号、新型コロナ、
原油高・物価高騰、八潮市 陥
没事故



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

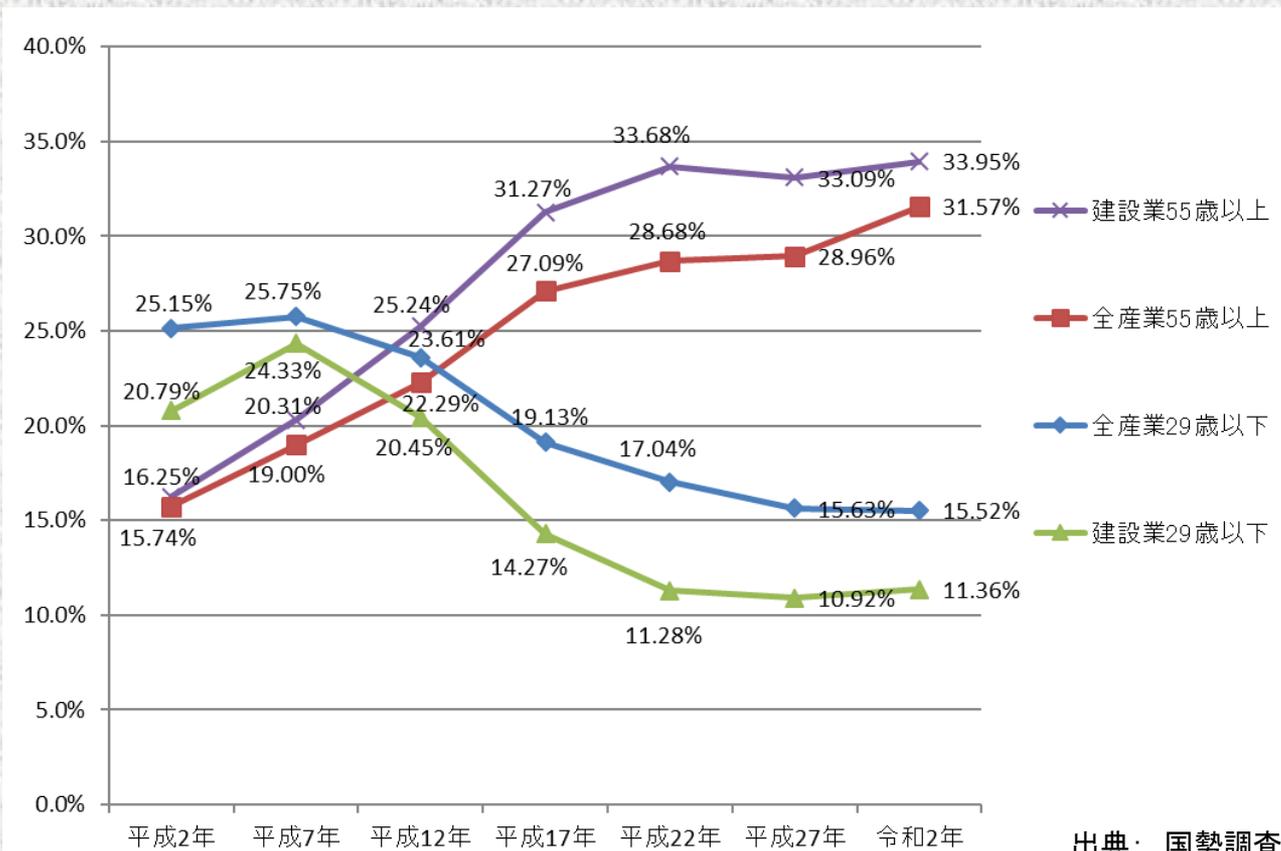
◆埼玉県内の建設業従事者数の推移





1. 県内建設業の現状について (1) 担い手

◆ 埼玉県内の年齢階層別就業者の割合の推移(全産業・建設業)



全産業・建設業とも

- ・ 55歳以上が増加
- ・ 29歳以下が減少



建設業の乖離が大



建設業において

- ・ 担い手が不足
- ・ 技術の伝承が懸念



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

◆埼玉県内の職業別有効求人倍率の推移

職業計	R6.4	R5.4	R4.4	R3.4	H31.4	H29.4	H27.4	H25.4
全体	0.89 ↓	0.92	0.88	0.80	1.12	1.02	0.68	0.51
管理的職業	0.68 ↓	0.94	0.88	0.87	1.12	0.96	0.69	0.56
専門的・技術的職業	1.27 ↑	1.27	1.21	1.11	1.17	1.53	1.10	0.92
建築・土木・測量技術者	3.93 ↑	3.72	3.13	2.82	3.18	4.16	2.55	2.18
事務的職業	0.27 ↑	0.27	0.25	0.19	0.35	0.33	0.24	0.16
販売の職業	1.28 ↓	1.13	0.99	0.91	1.82	1.40	0.82	0.57
サービスの職業	2.45 ↑	2.39	2.16	1.92	3.09	2.76	1.72	1.12
介護サービスの職業	4.08 ↑	3.91	3.56	3.47	4.64	3.25	2.27	1.45
保安の職業	4.76 ↓	4.81	4.70	3.89	8.70	8.45	3.16	1.89
農林漁業の職業	0.69 ↓	0.69	0.97	0.66	1.07	1.07	0.82	0.65
生産工程の職業	1.38 ↓	1.57	1.48	1.10	1.88	1.61	0.84	0.52
輸送・機械運転の職業	1.61 ↑	1.54	1.36	1.32	2.21	1.97	1.28	1.09
建設・採掘の職業	5.09 ↓	5.36	4.62	4.61	6.41	4.71	3.39	2.90
建設躯体工事の職業	8.51 ↓	9.16	7.12	6.39	13.45	8.29	4.56	7.40
建設の職業	4.62 ↓	5.36	3.86	4.31	5.88	5.14	3.82	3.22
電気工事の職業	3.16 ↑	2.96	3.42	3.22	4.15	2.85	1.99	1.48
土木の職業	5.73 ↑	5.56	4.99	5.01	6.04	4.74	4.11	2.59
採掘の職業	10.00	求職なし	求職なし	13.00	3.00	4.00	求職なし	2.00
運搬・清掃等の職業	0.55	0.55	0.50	0.47	0.89	0.87	0.52	0.37

技術者
技能者
ともに
高い水準



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

◆埼玉県内工業高校(建設系)の募集人員の推移

	学校名	学科名	H9年度	H22年度	H31年度	R7年度
1	いずみ	環境建設	80	40	40	40
2	浦和工業	設備システム	80	40	40	募集停止 (R6~)
3	大宮工業	建築	80	80	80	80
4	春日部工業	建築	80	80	80	80
5	川越工業	建築	40	40	40	40
6	熊谷工業	建築	40	40	40	40
7	〃	土木	40	40	40	40
8	玉川工業	建設技術	80	40	募集停止	—
	合計		520	400	360	320
	(増減)			▲ 120	▲ 40	▲ 40

R8年度
統合予定

志願者倍率
(R7.3.6確定値)

くくり募集 1.13
(R6:1.07)

1.00 (R6:0.94)

1.06 (R6:1.09)

1.10 (R6:0.90)

1.00 (R6:0.90)

1.00 (R6:0.98)

27年間で

- ・ 200人が減少
- ・ 2学校が統廃合



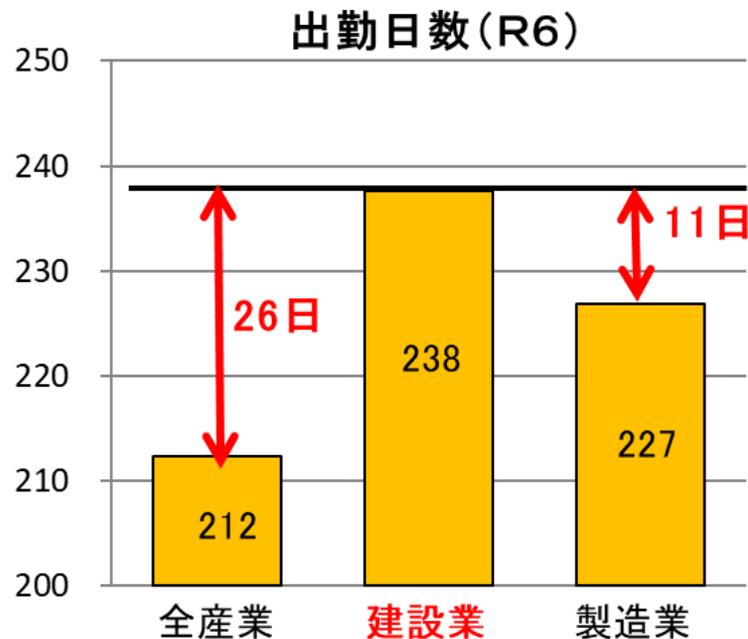
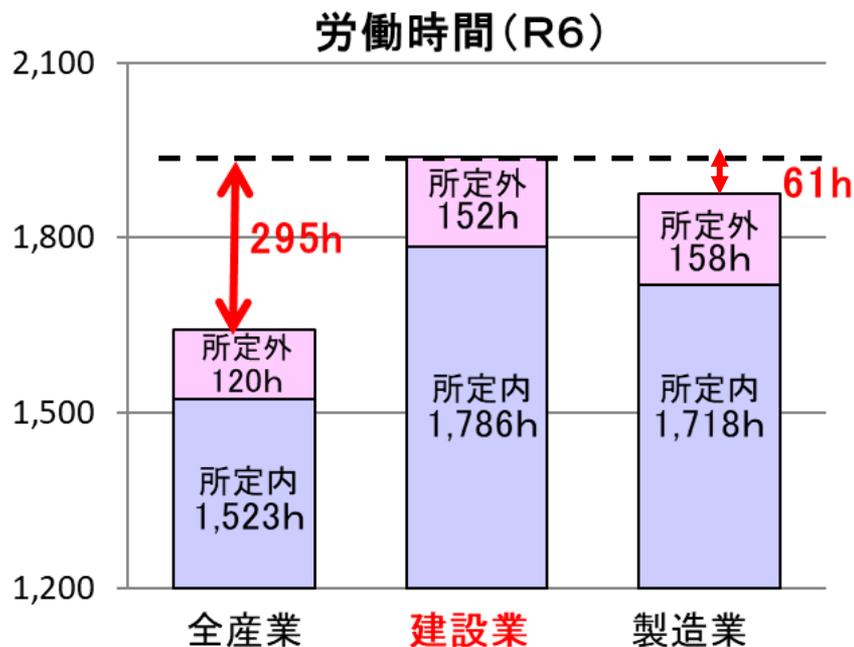
建設業において

- ・ 担い手不足が懸念
- ・ 技術の伝承が懸念



1. 県内建設業の現状について (2)就業環境

◆産業別 令和6年度 年間労働時間及び年間出勤日数

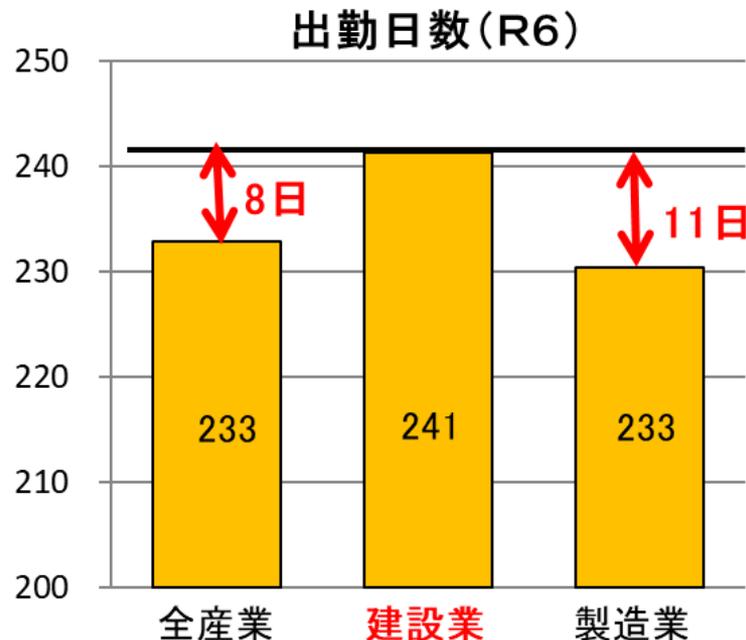
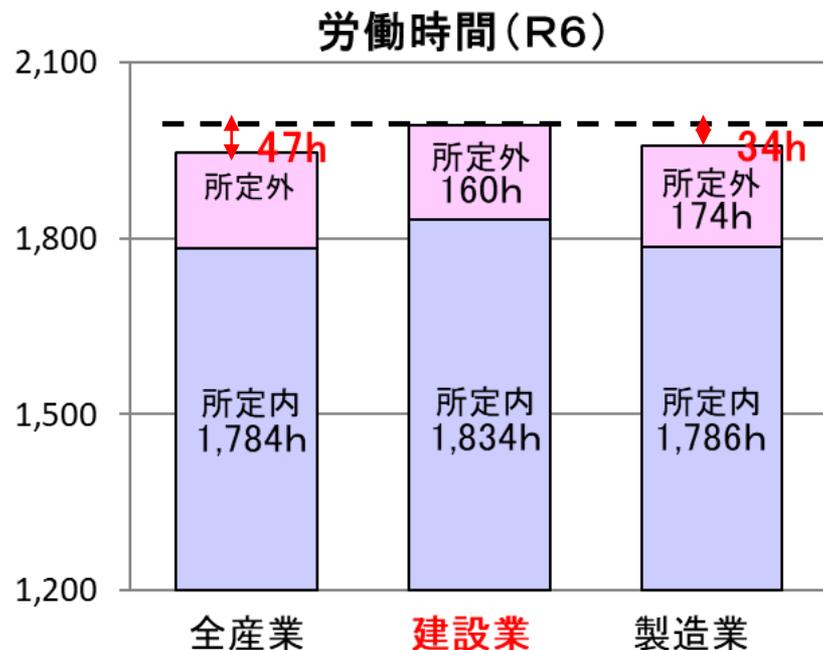


厚生労働省 毎月勤労統計調査(令和6年確報)



1. 県内建設業の現状について (2)就業環境

◆産業別 令和6年度 年間労働時間及び年間出勤日数

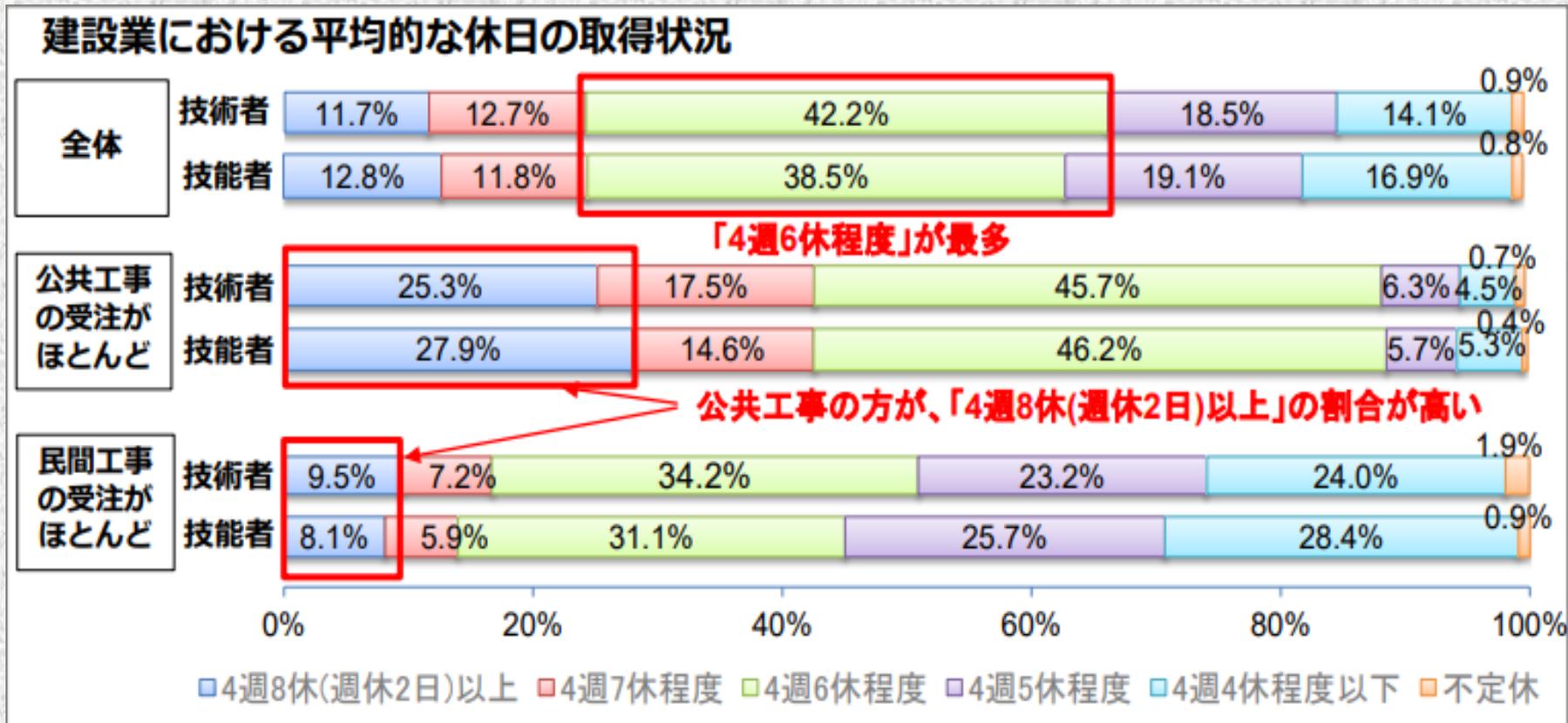


厚生労働省 毎月勤労統計調査(令和6年確報)



1. 県内建設業の現状について (2)就業環境

◆建設業における休日の状況(技術者)

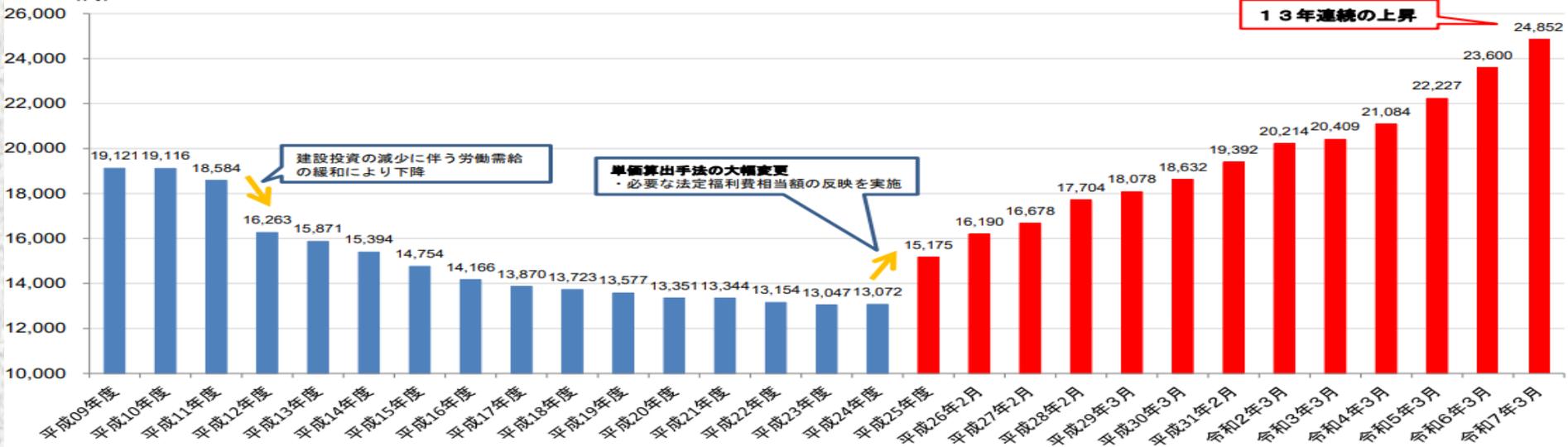




1. 県内建設業の現状について (2) 就業環境

◆ 令和7年3月から適用する公共工事設計労務単価

公共工事設計労務単価 全国全職種平均値の推移



参考：近年の公共工事設計労務単価の単純平均の伸び率の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	R04	R05	R06	R07	H24比
全職種	+15.1%	+7.1%	+4.2%	+4.9%	+3.4%	+2.8%	+3.3%	+2.5%	+1.2%	+2.5%	+5.2%	+5.9%	+6.0%	+85.8%
主要12職種	+15.3%	+6.9%	+3.1%	+6.7%	+2.6%	+2.8%	+3.7%	+2.3%	+1.0%	+3.0%	+5.0%	+6.2%	+5.6%	+85.6%

注1) 金額は加重平均値にて表示。平成31年までは平成25年度の標本数をもとにラスパイレズ式で算出し、令和2年以降は令和2年度の標本数をもとにラスパイレズ式で算出した。
 注2) 平成18年度以前は、交通誘導警備員がA・Bに分かれていないため、交通誘導警備員A・Bを足した人数で加重平均した。
 注3) 伸び率は単純平均値より算出した。

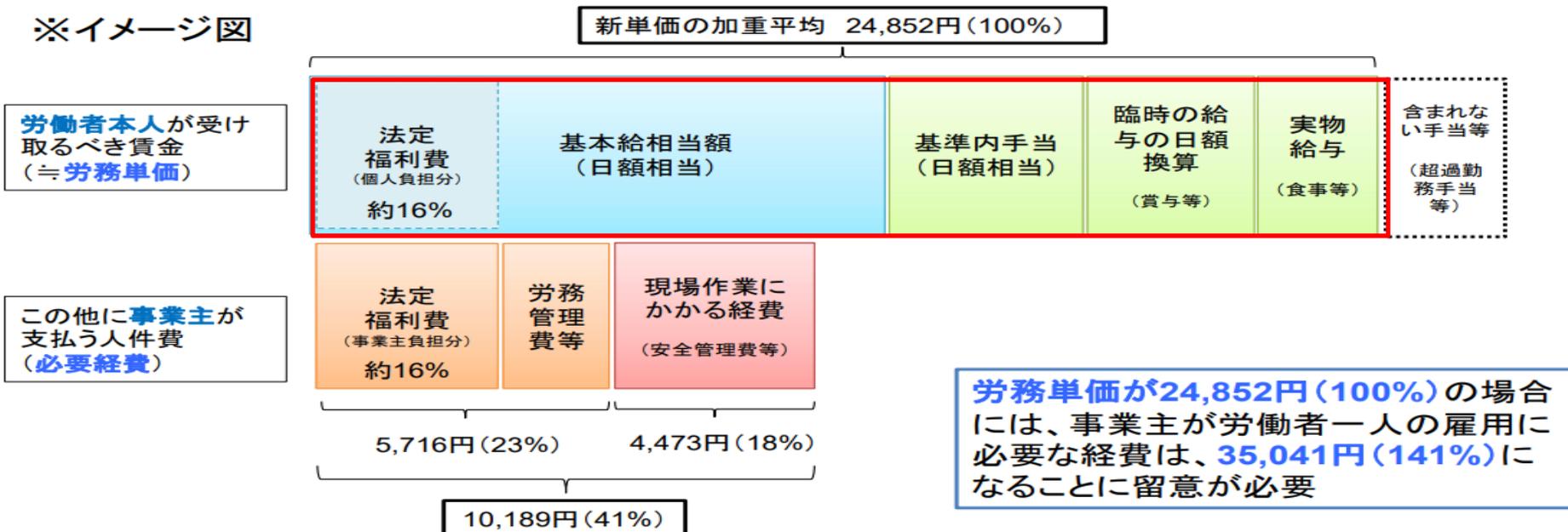


1. 県内建設業の現状について (2) 就業環境

◆「公共工事設計労務単価」と「雇用に伴う必要経費」の関係

- 労働者本人が受け取るべき賃金を基に、日額換算値(所定内労働時間8時間)として労務単価を設定
⇒ 例えば、日給制の労働者が受け取る日当よりも広い概念。法定福利費も全額反映
- 労務単価には、事業主が負担すべき必要経費(法定福利費、安全管理費等)は含まれていない。
- 事業主が下請代金に必要経費分を計上しない、又は下請代金から必要経費を値引くことは不当行為

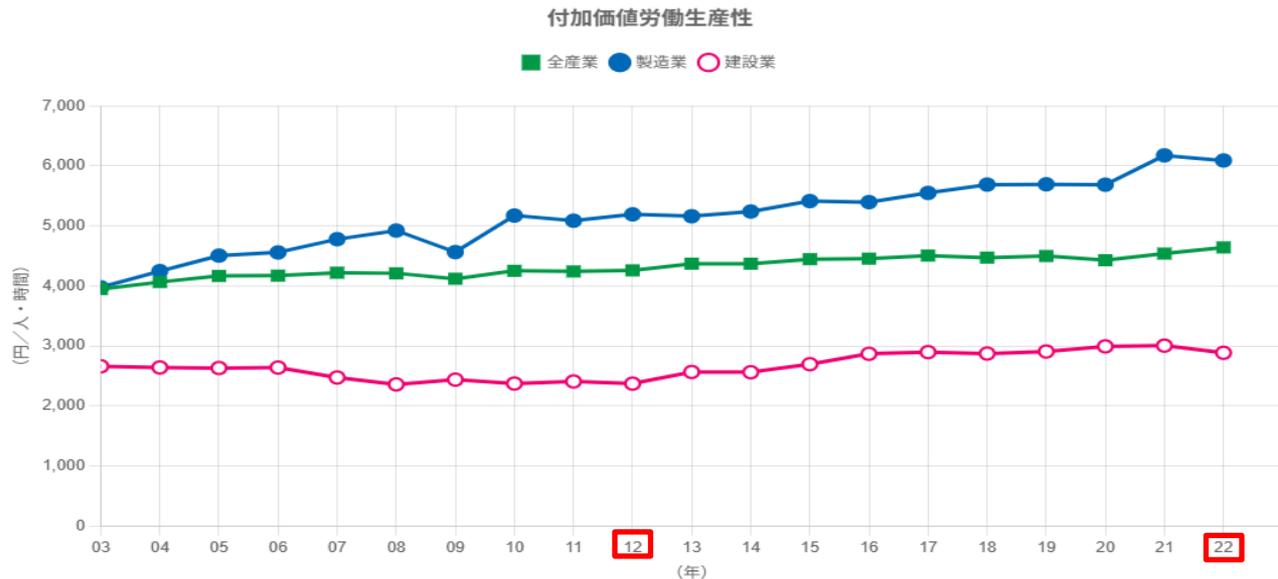
※イメージ図





1. 県内建設業の現状について (2) 就業環境

◆ 産業別 労働生産性の推移



製造業：131%
(全産業対比)

建設業：62%
(全産業対比)

前へ

次へ

(注) 労働生産性 = 実質粗付加価値額 (2015年価格) / (就業者数 × 年間総労働時間数)

資料出所：[内閣府「国民経済計算」\(トップページ\)](#)
[内閣府「国民経済計算」\(詳細ページ\)](#)
[内閣府「国民経済計算」\(詳細ページ\)](#)
[内閣府「国民経済計算」\(詳細ページ\)](#)
[総務省「労働力調査」\(詳細ページ\)](#)
[厚生労働省「毎月勤労統計調査」\(詳細ページ\)](#)



1. 県内建設業の現状について (3)近年の動向

◆工事等に係る主な動向

年度	事項	現状及び対応
H30	猛暑日	○ 全国で記録的な猛暑。気象庁は「命の危険がある暑さ。一つの災害と認識」。熊谷市で国内観測史上最高を更新(41.1℃) ● 「 工期の延長 」の対象。「 現場管理費の補正 」の試行。
R1	CSF(豚コレラ)	○ CSFウイルスにより起こる豚、いのししの熱性伝染病。県内養豚場での疑似患畜が確認。 ● 「 防疫措置 」の実施。「 ワクチン接種 」の実施。
R1	台風19号	○ 河川の越水、溢水、破堤などが発生。 ● 県は「 131箇所の災害査定 」を実施。「 災害復旧工事 」の発注。
R2	新型コロナウイルス	○ 新型コロナウイルスによる感染症が世界各地で発生。 ● 受注者の申し出により、工事等の「 一時中止 」や「 工期延長 」。
R4	原油価格・物価高騰	○ コロナ過における原油価格・物価高騰の影響。 ● 「 実勢価格を反映した発注 」や「 スライド条項の周知 」を実施。
R7	八潮市 道路陥没事故	○ 中川流域水道の下水道管破損に起因する道路陥没事故が発生。 ● 「 下水道の使用自粛 」や「 交通規制 」を実施。

⇒ 不測の事態等により、事業に様々な制約が発生し、対応が求められる状況